

斑点米カメムシ類の生態と発生予察技術
—特にアカヒゲホソミドリカスミカメについて—

樋口 博也 氏

(九州沖縄農業研究センター 生産環境研究領域長)

日時：2013 年 4 月 19 日 (金) 16:30~18:30 頃

会場：明治大学生田キャンパス 中央校舎 0407 教室

カメムシ類の吸汁により表面に黒色あるいは茶色の食害痕ができた玄米のことを「斑点米」と呼びます。斑点米はコメの品質を著しく低下させるため、生産者にとっては深刻な問題のひとつとなります。斑点米の原因となるカメムシ類には多くの種がありますが、1980 年中頃から、本来はイネ以外のイネ科植物を好むはずのカスミカメムシ類の問題が深刻化しました。特に、アカヒゲホソミドリカスミカメとアカスジカスミカメの 2 種は被害が甚大であり、防除へ向けた様々な取り組みが進められてきました。

樋口氏は斑点米カメムシ類対策の陣頭指揮を執ってきたリーダーです。今回のセミナーでは、アカヒゲホソミドリカスミカメを対象とした合成性フェロモンならびに誘引トラップの開発と、これを応用した発生予察技術の開発について紹介して頂きます。是非、奮ってご参加下さい。

問い合わせ：農学部 応用昆虫学研究室 糸山 享

(5 号館 208、内線 7810)